

△アロチノロール塩酸塩錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】アロチノロール塩酸塩 arotinolol hydrochloride 【分類】β遮断薬

【単位】△5mg・▼10mg/錠

【常用量】■高血圧症：20mg/日 [最大30mg/日] ■本態性振戦：10mg/日から開始し維持量20mg/日 [最大30mg/日]

【用法】分1～分2

【透析患者への投与方法】体内動態の変化は少なく減量の必要なし (1)

【保存期CKD患者への投与方法】おそらく減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】本態性高血圧症、狭心症、頻脈性不整脈、本態性振戦に適用されるα・β遮断薬。骨格筋のβ2遮断作用により抗振戦作用を発現する (1) 旧商品名「アルマール錠」

【主な副作用・毒性】心不全、心ブロック、徐脈、めまい、ふらつき、脱力・けん怠感、消化器症状、眠気、肝機能検査値異常、中性脂肪増加、尿酸値上昇など

【モニターすべき項目】血圧、脈拍

【F】50%以上 [ラット・イス] (1) 初回通過効果は受けにくいと思われる (1)

【tmax】2hr (1)

【代謝】主に肝エステラーゼにより代謝され、主要代謝体のAC-623 (カルバモイル基が加水分解されたカルボン酸体) が生成 (1) AC-623のAUCは未変化体の1/4で (1) 未変化体と同程度のβ遮断作用があり、α遮断作用はない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率3.6～5.2% [po, 24hrまで] (1) 尿中に活性代謝物のAC-623として2.9%排泄 [po, 24hrまで] (1)

【t1/2】約10hr (1) 活性代謝物：6hr (1)

【蛋白結合率】91.2% (1)

【Vd/F】単回投与データからおおよそ1L/kg (5)

【MW】408.00

【透析性】蛋白結合率が高いため除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】最低有効血中濃度：20ng/mL (1) 【O/W係数】1.197 [1-オクタノール水系, pH7] (1)

【相互作用】降圧剤、抗不整脈薬などと併用注意 (1) フィンゴリモドの投与開始時に併用すると徐脈が増強 (1)

【備考】α：β受容体遮断作用比はおおよそ1：8 (1)

【更新日】20190710

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。